

15	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	16109006	てんかんの分子病態の解析：受容体・イオンチャンネルの遺伝子多型に基づく個別化治療の開発	兼子 直（弘前大学・医学部・教授）	A
<p>（意見等）</p> <p>てんかんの責任遺伝子、疾患感受性遺伝子の解析では、EFHC1 の同定をはじめとして多くの新規変異の発見が続いており、順調に成果を上げている。遺伝子操作動物の作出に関しては、責任遺伝子を組み込んだ遺伝子改変ラットを作出した。当初の予定通りてんかんモデル動物の作出に成功したことは高く評価され、今後動物モデルを用いた研究の進展が期待される。抗てんかん薬の作用機序の研究に関しては、技術的な問題もあって進展が遅れている。研究状況報告書で見ると、原著としての発表論文数も多く、しかも難度の高い医学雑誌にも受理されており、これまでの研究成果は質・量において概ね世界のてんかん研究のトップレベルにランクされるものと評価される。てんかんの基礎的研究から個別化治療の開発という臨床応用まで当該分野を幅広くカバーする研究成果が出てきており、しかも将来のてんかん研究の道筋を示すような成果もあり、本研究成果の普及性、波及性は高いと考えられる。一部進捗が遅れている研究テーマもあるが、全体として順調に研究成果を上げつつあり、当初の研究目的は概ね達成できると期待される。</p>				
16	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	16109007	脂肪内分泌代謝学を基盤としたメタボリック症候群のトランスレーショナルリサーチ	中尾 一和（京都大学・大学院医学研究科・教授）	A
<p>（意見等）</p> <p>研究の着眼点に独創性は弱いですが、研究が達成されると社会的意義は高いと考えられる。当初の研究目的がかなり高い目標を掲げているが、概ね順調に成果を上げつつある。</p> <p>研究成果の学術的価値に関しては、量的に少々物足りない。</p> <p>研究計画はおおむね妥当である。いずれにしろ当初に掲げた内容が完全に達成できれば、医療分野における貢献度はきわめて高いと考えられる。</p>				